# 北陸先端科学技術大学院大学主催
# Matching HUB Kanazawa（M-BIP）2025への応募

団体名●中尾公一専門ゼミナールⅠ・Ⅱ／代表者名●中尾 公一（経済学部経営学科・教授）

## はじめに（背景・目的・目標）

本稿は経営学科を中心とする3年生の専門ゼミナール生16名を対象に、北陸先端科学技術大学院大学主催 M-BIP（Matching HUB Business idea & Plan competition）2025に応募した活動報告である。M-BIP 2025は、学生のアイデア、研究成果をビジネスに活かし、イノベーションにつなげようとする学生対象のビジネスアイデア・プランのコンテストである。

## 活動内容

応募に際し、社会課題を解決するビジネスの着想等の事例を学ぶため、深井宣光（2023）『SDGs ビジネスモデル図鑑 社会課題はビジネスチャンス』（KADOKAWA）を輪読し、また「ソーシャルビジネス論」の受講を求め、社会課題を解決するためのビジネスプラン（BP）作成に必要な知識を得てもらった。その上で「あったらいいな」と思う、仮のBPを構想しゼミ生同士で意見交換した。さらに関西圏でのゼミ合宿の機会等を活かし、各ゼミ生のBPと同様の事業を展開している先輩事業者のデスクリサーチを行い、仮説を立ててお話を伺った。（具体的な協力先は、五十音順でかつ敬称略で、朝日興業株式会社、NPO法人石橋商業活性化協議会、株式会社 大阪ガスクッキングスクール、株式会社 ガクトラボ、京都グレインシステム株式会社、株式会社グロースリード、新明和工業株式会社、一般社団法人 brk collective、NPO法人部活動リノベクエスト LABO である）。さらに、ポスターセッションで日本政策金融公庫金沢支店関係者の助言を得た上で M-BIP2025に応募した。

写真 先輩事業者や利用者への調査

## 成果、結果の考察

2025年11月13日、ファイナリストに選出されていたゼミ生が、人生の節目や家族の大切な瞬間を360度カメラで記録し、後にその場に戻ったように再体験できる映像サービス「VR メモリーズ」を発表し、システムサポート賞と Komatsu Start up Lab「よーいやはっすん」賞を受賞した。受賞の背景には、ゼミの外でも自身の知人からも助言を得る等、試行錯誤を繰り返し続けたことがあったと考えられる。

写真 受賞を喜ぶゼミ生

他方、惜しくも選から漏れたゼミ生達にとっても、未経験の先輩事業者へのアポ取付や BP の練り直し等、応募の際の試行錯誤を通し、利用者視点にたち、1からビジネスプランを考える難しさ等、大学で学んだ経営学を再考する機会が提供された。またゼミ全体として M-BIP への応募とは別に、日本政策金融公庫金沢支店のご厚意で、東京都や北陸の起業家の方々と起業に関する意見交換の機会を設けて頂いた。

## 今後の課題、展望

生成 AI が「正解」を瞬時に出す時代、「正解」だけを具備した商品やサービスはコモティディ化し、速さと安さや利便性中心の競争の世界となる。

他方、自身の関心に添った BP の構想計画は、「推し」の世界と同様、特定の市場での共感や広がり、新商品やサービスを生む、可能性の世界でもある。

M-BIP への応募は学生や教員の負担の大きさが課題だが、学生の意欲に応じ上記の対照的な二つの世界を探索する機会として展望できると考えられる。